世代別・職業別タウンミーティング（聖カタリナ大学）(要約)

テーマ：学生の視点で松山市を考える

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　平成２８年１月１５日（金曜日）

【市長】　皆さん、改めましてこんにちは。今日は、タウンミーティングということで聖カタリナ大学さんに来させていただきました。まず、タウンミーティングのご説明をさせていただいたらと思います。私が市長に就任をさせていただいて今２期目、６年目というところですが、市長に就任してからこのタウンミーティングを始めさせていただきました。松山市は旧松山市・旧北条市・旧中島、合わせて４１地区に分かれます。どちらが楽かというと、皆さんが市役所に来られるのを待っているほうが楽ですが、果たしてそれでいいんでしょうか。我々のほうから各地区に出向いていって、皆さんの声を聞かせてもらいましょう。魅力を聞かせていただいたら魅力は伸ばし、課題を教えてもらったら課題は減らす、そういうタウンミーティングを重ねてまいりました。できるところからすぐに市政に反映するというタウンミーティングを重ねてまいりました。市長の任期は１期４年、４８カ月ですから、４１地区を１カ月に１地区のペースで回っていこうと考えていましたが、おかげさまで好評になりましたので１期目４年の中でこの４１地区を２巡りさせていただきました。２期目に入らせていただいたので、この地区別のタウンミーティングは今までどおり継続するけれども、世代別と職業別のタウンミーティングもしましょう。職業別だと、例えば農業関係の方や商店街関係の方に集まっていただいて、また、世代別だと皆さんのような若い力がまちづくりに本当に必要なので、若い世代の方、大学生世代や子育て世代に集まっていただいてのタウンミーティングを開催しています。今日、聖カタリナ大学さんにやってきましたけれども、一時間半という時間ですから肩ひじ張っていると緊張してしまいますので、ざっくばらんに日ごろ思っていることを遠慮なく言っていただいたらと思います。今日は皆さんと松山のまちづくりについていい意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【司会】　本日のテーマ趣旨について市長からご説明いたします。

【市長】　先ほど司会からご説明をいたしましたが、いい加減な返事をして帰るわけにはいかないので、できるだけ即答しようと思うんですけれども、中には財政的な問題があるもの、国と絡むもの、県と絡むもの、そういうものについてはいったん持ち帰らせていただいて、一カ月を目処に必ず返事をさせていただきます。やりっぱなしにしない聞きっぱなしにしない、というのが松山市版タウンミーティングの特徴です。また、今回ホビノ・サンミゲル学長さんを始め、教職員の方々には大変お世話になりました。ありがとうございます。このように授業の合間に集まっていただき本当にありがたく思います。前のスクリーンを見ていただいたらと思います。今日のテーマですが、聖カタリナ大学さんとご相談させていただく中で、ご覧のように「学生の視点で松山市を考える」とさせていただきました。サブテーマは皆さんが専攻されている、社会福祉学科・健康福祉マネジメント学科・人間社会学科・健康スポーツ学科・保育学科に沿った内容ということで「暮らしやすいまちづくりに必要なことについて」とさせていただきました。今日の世代別のタウンミーティングですが、松山の恵まれた立地、松山の宝を活かしたいと思っています。実は、皆さんも松山の宝です。松山には４年生大学が４つあります。そして、短期大学が３つあります。専門学校がおよそ２０あります。この学生さんの人数だけでおよそ２万人います。この学生さんたちがまちづくりに関わっていただけるのといただけないのでは全然違う。こういった利点を活かそうと、これまでも学生さんによる政策論文や市長と語る若者会議などのワークショップを通じて若者の意見を市政に取り入れてきました。皆さんも聞かれたことがあると思いますが、まちづくりに大事な要素として３つ言います。若者・よそ者・ばか者。若者、まさに皆さんのような力ですね。よそ者というのは外からの視点です。ばか者というのは本当にばかという意味ではなくて、突飛な発想や奇想天外なアイディアが必要と言われています。日ごろから聖カタリナ大学さんと松山市はいい関係が築けていると考えています。聖カタリナ大学さんと松山市の共同事業として、子育て支援ひろば「ぽけっと」の運営や災害時のボランティア活動の協定があります。また、子育て応援連携の協定による子育てのフリーペーパーを発行しています。さらには、はなみずき通りにある南部児童センターで、ダンスを教えてくれるなど、さまざまな分野で市政にご協力いただいていて、大変心強くありがたく思っています。まちづくりというのは、行政だけでやれることには限りがありますので、皆さんのように若い力、そして民間の力が大事ですので、そういったところでいい意見交換ができればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

【男性】　保育学科１回生です。保育学科ということで暮らしやすいまちづくりを目指すうえで、育児や子育ての質問をさせていただきます。松山市がほかの市町村にはない特色ある施策など、子育てなどの関連で行っていることがあれば教えていただきたいなと思います。

【市長】　私の肝いりですが、保育園幼稚園の園庭の芝生化事業はご存知ですか。知っている方は、手を挙げていただいたらと思います。ありがとうございます。先生方は、たくさん挙げていただきました。できるだけ分かりやすく説明したいと思います。松山市立の保育園幼稚園に園庭があるのですが、５つぐらいのメリットがあるので始めました。これは小児科の先生から教えていただいたのですが、勉強されているからご存知かもしれませんが、今の子どもたちは、コミュニケーション能力不足と言われるようになってきました。子どもたちは、コミュニケーション、自分の気持ちを伝える能力をどのような時に鍛えているのかというと、子ども同士で遊ぶ時に鍛えているんだそうです。例えば、僕はこういう遊びがしたい、私はこういう遊びがしたい。子ども同士ですから、やりたい遊びと遊びが重なりますね。そうなると子ども同士で遊びを工夫する、中和する、我慢する。子どもが子どもたちだけで遊ぶ時にコミュニケーション能力自分の気持ちを伝えるということを鍛えているんだそうです。でも今、私たちが子どもの時に比べると少子化のこともあるんでしょうけが、公園で遊んでいる人が少なくなっているように思います。ゲームをやる方が楽しい、家でテレビを見る方が楽しい。防犯的なことで言うと、子どもたちだけで公園で遊んだら危険な気がするとか、塾が忙しい、そういうことで子どもたちだけで遊ぶ環境が少なくなっているんですかね。そこで、このように（スクリーンを指して）松山市立の保育園や幼稚園の園庭を芝生化します。このように、園庭を約５０センチ四方ぐらいの升のようにして、芝の苗を用意しています。北条はゴルフ場が多いですが、園庭の芝生化というとゴルフ場みたいな立派な芝生が必要だと思うかもしれませんが、子どもたちが遊ぶ場ですからゴルフ場まできれいにしなくていいんです。少々雑草があってもいいですし。これはティフトンという発育や生育の早い西洋芝を使います。鳥取方式というのがあって、それをヒントにやらせていただいています。鳥取方式をそのまま持ってくるのは難しかったので松山流にアレンジしているんですが、先生だけが植えるのではなくて、教職員の方、子どもたち、保護者の方も一緒に植えます。大きいところは地域の方も一緒に植えるんです。そうすることによって、何がいいかというと、芝生というのは生き物ですから地域の方と一緒に植えると、「この芝生が育っているかなあ。」「自分が植えた芝生が育っているかなあ。」ということが園への関心につながっていくんですね。園への関心につながったら、「そこで育っている園児が元気に育っているかなあ、頑張っているかなあ。」という園児への関心につながっていくんです。そうなると地域で子どもたちを育てていく環境につながっていきます。また、プラスの要因としてコミュニケーション能力の向上と地域で子どもたちを育てていく環境づくり、そして熱中症対策になります。普通の砂の園庭と温度の上昇具合が違ってきます。だいたい６月ぐらいにきれいに生えそろいます。６月の状態が非常にきれいですね。コミュニケーション能力・地域・熱中症対策・砂埃対策にもなります。近所のご家庭に砂が飛んでいくことが少なくなるという利点もあり、松山市の幼稚園や保育園では芝生化をやっています。これらが特徴的な事業です。ほかにもいろいろ松山ならではの子育て事業をやっているのですが、時間の関係もありますので１つだけご紹介させていただきました。もう１つだけ言うと、子育てをとにかくバックアップしていきたいんですよ。子育て環境が整わないからなかなか子どもの数が増えないという社会は発展性がないと思うんですね。中には産みたくても産めない方がいらっしゃいますが、子どもの数がなかなか増えない社会は発展性がないと思います。松山市では、できる限り子育てのバックアップをしています。市役所の中にも子育て経験者がいますよね。市役所職員は、女性だけではなく、イクメンもいますからもちろん男性の子育て経験者にも集まってもらってどういう策をやったら子育てのバックアップできるか、また、タウンミーティングでいうと子育て世代の人に集まっていただいてタウンミーティングをやって、そこでもできる策につなげています。とにかく子育てをバックアップしていきたいと思っています。

【女性】　人間社会学科です。課題を見つけたので報告したいと思います。聖カタリナ大学の門を右に出たところに狭い路地があり、そこから駅に向かうまでの道に街灯がなくて夜がものすごく怖いという女子生徒の意見を聞きました。授業や実習が多い学科があるので夜が遅くなります。不審者が出たというわけではないのですが、冬だと暗くなるのが早く危険を感じることがあるということです。また、狭い道路の割には、意外と車の通行が多くてスピードを下げずに通る車が多いんです。だから、歩行者の存在に気づいてくれない車が多く、バッグがぶつかりそうになったとか、手がぶつかったという意見を聞くので、そこに街灯があれば少しは変わるかなと思うのですが、いかがでしょうか。

【市民部長】　市民部でございます。よろしくお願いします。正確な場所については、この後詳しく聞かせていただきたいと思います。防犯灯に関する制度の説明をさせていただきます。松山市では、防犯灯は各町内会自治会などに設置や維持管理をしていただいています。それに対して松山市が防犯協会を通じて、費用の補助をしています。ですので、言われていたところに防犯灯を付けたいという時には、地元の方にお話をして、どこにでもというわけにはいきませんので、ここだったらいいというようなお話をさせていただいて、申請をしていただき、設置するようにしてもらっています。どういう方にお話していいかわからないと思いますので、この会の後に場所を確認させていただいて、こちらからご意向を伝えたいと思います。後でよろしくお願いします。

【市長】　ちょっと教えていただいたらと思います。今、聖カタリナ大学さんの男女比ってどれぐらいですか。

【女性】　学科によって違います。

【市長】　学科によって違いますよね。これは先生に聞いた方がいいですよね。だいたい何割何割ぐらいですか。やはりまだ女性が多いですか。

【女性：職員】　半々ぐらい。

【市長】　急にふってすみません。今は共学ですから、男性ももちろんおいでますが、やはり若い女性がいる場所で行き来しますから、一般的な地区より街灯は必要だと思います。松山市の街灯って３万灯ぐらいあるんです。なぜ町内会かというと、３万灯の街灯全部を松山市で管轄していたら修理が遅くなってしまいますよね。松山市では、黄色の道路パトロールカーが、道路をみてまわっているのですが、街灯を全部チェックしていくと、球が切れた場合の対応が遅くなりますね。ですので、町内会の方に申請していただき、地元の方々に管理をしてもらう形をとっています。道路で危険に感じる場所や防犯灯が欲しいなというところがあれば、会の後で遠慮なく言ってください。防犯灯のことは市民部長に言ってもらったらと思います。それと、「ゾーン３０」といって３０キロ以下で走行しましょうという規制をしている場所があります。近くに北条小学校もあるので、この辺の道をゾーン３０にできないですかね。交通管制、皆さんを規制するのは警察のお仕事ですね。信号機を付ける。信号機を付けるということは、赤の時は通っちゃダメですよって規制をするわけです。ゾーン３０は、３０キロ以下に規制するということですから警察の話なんですね。ゾーン３０については、警察と話をしなくてはいけないのですが、この近所ではゾーン３０は見たことがないですか。みんなそんなに意識しないですもんね。ゾーン３０ができないのか、これも話をしてみたいと思います。

【男性】　社会福祉学科３回生です。まちづくりについてですが、韓国から来たので、留学してから松山にいるのですが、松山で有名なものは結構ありますが、韓国の観光客や友達に聞いたら、温泉とミカンしか知らないんです。私がこっちへ来てまだ２年ですが、好きなものは鯛めしやじゃこ天などいっぱいあるんですが、そういうことが知られていないので、松山市には愛媛大学や松山大学、聖カタリナ大学などに留学生がいらっしゃるんですが、３０カ国以上の留学生がいるという事実を確認しました。その留学生を活用して松山に隠れている有名な物や名物をネットやＳＮＳを活用して広げたらどうかと思います。それだったら、留学生が自分の友達から友達の友達へと口コミでもうちょっと宣伝ができると思います。

【市長】　ありがとうございます。日本語がお上手ですね。韓国には、松山市の友好都市で平澤市という市が、ソウル市の南８０キロのところにあります。去年の１０月に平澤港マラソンというマラソン大会がありまして、１０キロを平澤市の市長さんと走らせていただきました。ぜひともやっていただいたらと思います。松山市に外国人観光客が１年にどれぐらい来ていらっしゃるかご存知ですか。９万人ぐらい来ているんです。約８万８，７００人、平成２７年は現在集計中ですので、平成２６年の数字ですが、増えているか減っているかというと、増えているんです。どれぐらい増えているかというと、かなり増えています。前の年に比べると４万人、４０％も増えています。色んなことをしながらたくさんの外国の方に来ていただいているんですが、外国人の方が旅行先を選ぶ時に個人のブログなどのＳＮＳを参考にしている割合が実際一番高いですね。ですので、留学生の皆さんでぜひ故郷のご家族やお友達に松山の魅力を写真やメッセージを通して発信していただきたいと思っています。これは、どこの課に言ってもらうのが一番いいでしょうか。学生さん留学生さんが、ただ発信するだけだったら困ることがあるかも知れないので、もし困った場合はどこの課に話をしてもらったらいいですかね。

【産業経済部副部長】　産業経済部の中に、観光・国際交流課という国際交流関係を担当している部署がございますので、何かご相談があれば、こちらへお願いします。

【市長】　松山市役所の中に観光・国際交流課があります。まさに、国際

を担っているところですが、こちらへ相談していただければ困ったときは、すぐに手助けできるようにしていますので遠慮なくおっしゃってください。個人でインスタグラムやフェイスブック、ブログなどで発信してもらったら本当にありがたいので、これからも引き続きお願いします。

【女性】　社会福祉学科３回生です。私は社会福祉学科ですが、福祉の面とは違うかもしれませんが、お聞きしたいことがあるのでお話させてください。私はもともと南予の出身でこちらの大学に来るために松山に住んでいます。ここ北条はまだ道が狭いのですが、松山の市内のほうに行くと、３車線、４車線というのが当たり前で道幅がすごく広いです。私は交通手段が歩きだけなので、普段は歩いて動くのですが、松山の広い道を歩こうと思って、横断歩道を渡るんですけど、その横断歩道の歩ける時間が短くて、最初にスタートしても最後まで渡りきれないお年寄りの方をよく見かけます。そういう方とは一緒に渡るようにして、車にひかれないように気を付けてはいるんですけど、時間を増やしたり、もっと高齢者の方が渡りきれるような努力ができないかなと思って、聞きたいと思います。

【都市・交通計画課長】　都市・交通計画課長の石井です。よろしくお願いします。信号の赤と青の切替えについては、専門用語で信号現示と言うそうです。

【市長】　「げんじ」ってどんな字を書くんですか。

【都市・計画交通課長】　現在の「現」に「示」と書きます。これは専門用語で別にどうでもいいんですけど。まず、歩行者の歩く速度は１秒何メートルという高齢者の平均の速度を警察が設定しています。信号の所管は警察ですが、高齢者が歩く速度、１秒間に何メートルという基準がありまして、それで高齢者の方が渡りきれる信号の青の表示時間を設定しています。例えばスクランブル交差点で斜めに横断歩道がついている交差点と斜めについていない交差点があります。街中でいうと、大街道の場合は斜めに横断歩道がついています。すぐ横の全日空ホテルの隣の裁判所前のところは斜めに横断歩道がついていません。斜めにすると距離が長くなり、その分を青で表示すると車の通行時間が短くなります。ですから、渡りきれない箇所があると言われたので、場所を後で教えてもらって警察に相談したいと思います。

【市長】　ここの信号がちょっと短いような気がするとか、遠慮なく言ってもらったらと思います。石井課長に言ったらいいですかね。９０分ですぐ帰るわけではないので安心してください。先ほど私が申し上げた話で、規制する、管制するというのは警察の仕事だよと言いましたけど、皆さん分からないですよね。道でも大きい道からいうと、国道があって、県道があって、市道があって、私道も農道もありますね。皆さん、どこが市（私）道で、どこが県道で、国道は大きいから分かると思いますけど、４９４号線とかもあるのでなかなか難しい。市は一番皆さんに身近な自治体なので、道のこととか横断歩道のこととか遠慮なく言ってもらったと思います。やっぱり高齢化社会なので、基本的には横断歩道もより皆さんの動きに合ったものになっていくんじゃないかなと、それは警察で判断されることですけど、秒数も長くなっていくのかなと思っています。一緒に歩いてくれてありがとうございます。そういう優しい気持ちがうれしいと思います。

【女性】　１年保育学科です。将来保育士または幼稚園教諭を目指しているんですが、実際募集を見ていても給料とかをみんな気にしている部分があって、実際に実習に行って子どもたちと触れ合えて楽しく過ごす部分もありつつ、やっぱり思い通りにならない子どもたちを相手にしていて大変だなと思うようになって、大変なのにそのお給料なのかということに対して残念に思っている子たちもいっぱいいて、現場で男性職員がいても家庭を持つとなるとそのお給料では家族を養っていくことができず辞めていく人がいます。そういうところを注目してほしいなと思うのですが、対策とかを何か考えているのかと思って質問しました。

【保健福祉政策課長】　保健福祉政策課の野本と申します。今おっしゃられた保育士さんとか、今問題になっている介護職場の職員さんとか、給料が少ないということを報道でもよく目にすると思います。最低基準は決められていますが、最低基準ではなかなか生活していくのは難しいだろうと。国でも処遇改善というところで保育士さんや介護関係の職員の方の給料を底上げしようと取り組んでおられますが、民間企業になると、雇う人と雇われる人との間でのお話になりますので、なかなか目が届きにくいというか、満足いくお給料がもらえていないのが事実ではないかなと思います。市が直接そこに指導ができるかというと、法律に基づくところでのお話になるとできるんですけど、その範囲内で雇う方、雇われる方がお話して決められるというところになるとなかなか手が出せないというか、こうしなさいという指導もできないのが現状だと思います。おっしゃられるように、魅力ある職場でそれ相応の給料がもらえる方向に国も持っていこうとしていますので、市としてもそれに合わせて取り組むというか、進んでいけたらというところです。満足のいく回答ができなくて申し訳ないですけれども。

【市長】　これは大きなテーマですけれども、松山市は人口３０万から７０万人の中核市というところに入ります。中核市の市長とか副市長が集まって、中核市サミットというのが昨年の１０月にありまして、その中で私も発言させていただきました。今、ニュースとかで地方創生とか子育て支援という言葉を聞かれたことがあると思います。国として子どもの数が少ないですよということが言われていますね。ということは松山市とか松前町とか大洲市とか、そういう市町の話ではなくて国全体としての課題です。私がその中核市サミットの中で発言したのは、皆さんも知らない話だったらこの機会に知ってもらったと思うんですが、子どもの医療費助成というのがあります。何歳まで無料にできますよというものですが、市町によって違います。入院と通院があります。風邪を引いて病院に行きますは通院。ちょっと複雑骨折しちゃった、入院します。通院と入院がありますね。通院やったら例えば小学校３年生まで無料にします。いやいやうちはもうちょっと頑張って小学校６年生まで無料にします。いやいやうちはもっと頑張って中学校３年生まで無料にします。各市町で頑張ってやっているんです。子どもが入院しないといけない、でも入院させてしまうと家計が苦しくなるから、本当は入院させたほうがいいんやけど入院させてあげることができないというのはあまりにもつらい現状なので、入院については比較的通院より手厚くやっているところがありますね。松山市は中学校３年生まで入院については無料になっています。これは各市や町が競い合うようにやっているんです。でもおかしくないですかという話を市長の立場として発言をしました。これは国全体として子育てをバックアップしないといけないのだから、自分たちの市や町で持ち出しをしてサービス合戦をするのはおかしい。国として何年生までは無料にしましょうと統一基準を設けないと、おかしいでしょうという発言をしたんですよ。それで保育士さんの話になります。保育士さんの確保はどこの市町も苦労しているんです。中核市サミットで一緒になった、船橋市さんは「うちで保育士さんになってくださいよ」と、「ふなっしー」を連れて関東一円をキャラバンして回っているんです。うちの市で保育士さんやってください。保育士さんが足りていないから。どこの市町も保育士さんを確保しようとしているわけです。これもどこの市町も課題になっているから国としてやるべきじゃないですか。我々は地方の市町としては言っている。ここから、もう１つのテーマに入ります。そういう国として何をやらないかんかというのを決めていくのは選挙です。誰に投票してくださいという話ではなくて、若い世代が選挙に行かないとより皆さんの声は反映されなくなります。人生の先輩方は比較的選挙に行きますけども、考えてみてください。おじいちゃん・おばあちゃんが必ず選挙に行くんやったら、政治家は誰に対して策を打つかというと、おじいちゃん・おばあちゃんに打ちますよね。どうせ若い人の策やったって選挙に行ってくれんのやけん、やってもしょうがなかろうということになりますから、やっぱり若い世代の皆さんが自分たちの日本なので、皆さんの世代がちゃんと投票に行かないと、これ間違えないでくださいね、誰に投票してくださいという話ではなくて、自分たちの世代が選挙に行かないと皆さんの声はますます反映されなくなりますから、選挙のたびに人ごとじゃなくて我が事ですよ、選挙に行くことが大事です。面倒くさいなと思うかもしれませんけれども、そういう意味で選挙に行くということはすごく大事なことなので、皆さんの意見を反映させてもらったらと思います。

【女性】　保育学科１回生です。保育学科なので子どもについてですが、最近の子どもたちは食物アレルギーが本当に多くなっていて、私も一昨年突発性で発症したんですけど、昔よりも食物アレルギーを持つ子が増えてきているという話を聞いて、その食物アレルギーが発症するだけでショック死する子どもたちも多いので、それについての原因追究と市でしている対策があったら教えてください。

【市長】　今、松山市は共同調理場方式というのをやっていまして、北条も新しい給食の施設ができました。こういう大きな施設でやると、いわゆるアレルギー対応食をすることができます。アレルギーを心配されるお子さん方、お父さん・お母さんが増えていますので、そういう対応ができるような大きな方向性で進めていきます。保健福祉政策課長から何か言うことありますか。

【保健福祉政策課長】　学校給食の中では個別対応というところで、それぞれご家庭から、例えばそばアレルギーがあるとか、ピーナッツアレルギーがあるとかを申し出ていただいた上で、それぞれに取り除いた、対応した食事を提供するように取り組んでいます。

【市長】　やっぱり子育てに関わる人ってものすごく大事なんですね。実は私事になるんですが、私の姉が４つ上で妹が６つ下ですが、ともにここの出身です。姉は幼稚園教諭をさせていただきましたので、まさに先輩になるんです。今、世間の流れとして、昔はおじいちゃん・おばあちゃんと一緒に住んでいる同居の方が多かったですね。でも生活スタイルの変化もあって、若いお父さん・お母さんで住んでいるケースがだいぶ増えてきている。そうなると子育てに教科書はないですから、１人目のお子さんなんて大変ですよ。近くにお父さん・お母さんがいて手伝ってくれるとか、昔みたいに近所の人が助けてくれるということだったらまた別だと思うけど、そういうつながりがないと子育てはしんどいんですよね。やっぱり保育士さんの存在、子育てを助けてくれる人の存在は大事ですから、大事なお仕事なので頑張っていただけたらなと思っています。

【女性】　保育学科１回生です。最近、子どもの虐待がすごく多くて、特に乳児たちが虐待というニュースを聞いたり、愛媛県でもこの前に虐待のニュースがあったんですけど、乳児虐待の発見などは私たち保育士などが率先して探していきたいと思うんですけど、国や市などの人たちが考えている虐待の解釈や発見をどのように行っているのかを教えていただきたいです。

【保健福祉政策課長】　今、おっしゃられたように、お母さん方も子どもをどう育てていけばいいのかわからないというところで、虐待という問題になるんじゃないかなと考えています。それは子どもさんが産まれる前からずっと取り組んでいく必要があると考えています。一番最初に関わるところは母子手帳を市へ申請に来られるときで、松山市の市民課や保健所の窓口でお渡しをしますが、保健師が直接面談をして相談に乗るなかで手帳をお渡しする。市民課にも保健師を配置していますので、そちらでも保健師が直接お話をして相談に乗る中で、手帳を交付しています。それから、産まれた後も「こんにちは赤ちゃん訪問事業」ということで、産まれた赤ちゃんのおられる家庭には保健師が行くところと、職員ではないんですけれども母子健康推進員さんがすべての家庭を回って、「大丈夫ですか。ちゃんと育てられていますか。」と相談に乗る中で、この人は危ない、大丈夫かなというところは子ども総合相談センターというところが松山市役所にあります。そちらに保健師とか保育士、心理判定員がおられます。その方たちが訪問して相談することで、ちゃんと子育てができるように支援していくように取り組んでいます。そういった中で、できるだけ虐待が起きないように、起きたときでも次の対応が取れるように取り組んでいます。

【市長】　子ども総合相談センターは場所がどこになりますかね。

【保健福祉政策課長】　場所は築山町になります。八坂小学校のすぐそばになりますが、青少年センターの中に子ども総合相談センターがございます。

【市長】　私から補足ですけど、市役所は皆さんと一番近い自治体が市役所ですとお話をしたんですけども、県庁に行く人は少ないと思いますね。ましてや国の役所に用事があって行く人はもっと少ないと思いますね。市役所の中に福祉総合窓口というのをつくりまして、市役所にはおじいちゃんやおばあちゃんも来られます。体の不自由な方も来られます。赤ちゃんを抱っこしたお父さんやお母さんも来られますね。そういう人に「その部署は２階なんで２階に行ってください。その部署は３階なんで３階に行ってください。」というのは不親切だと思うので、松山市役所はスペースがないんですけど、思い切って別館１階に福祉総合窓口というのをつくったんです。できるだけ親切にということが松山市の基本理念です。それと子ども総合窓口センターですが、「これは教育の話ではないですか。これは福祉の話の部門じゃないですか。」と言っていたら、虐待防止なんてできないんですよ。教育と福祉がしっかりと連携してやることが大事ということで、このセンターをつくりました。保健福祉政策課長から言いましたように社会福祉士、心理判定員、保健師、保育士、教員、警察ＯＢなどが協力して対応しています。皆さんにお願いですけど、もしご近所で「毎日毎日、長時間泣いているぞ。おかしいんじゃないかな。」ということがあったら、遠慮なく連絡していただいたらと思います。そうやってみんなの目があれば犯罪を防いでいけるところがあるので、皆さんもできる役割がありますので、遠慮なく言ってもらったらと思います。

【男性】　社会福祉学科の３回生です。僕は社会福祉学科ですけど、ボランティアセンターというところに所属していて、この前、松山市社会福祉協議会さんと災害についてボランティア協定を結ばさせてもらったんですけど、松山市社会福祉協議会さんは防災や災害に対する取り組みを結構しているんですけど、南海トラフ地震も来ると言われているので、松山市はどのような防災や災害支援をしているのか聞きたいんですけど教えてもらえないでしょうか。

【市長】　手前味噌なのですが、結構、松山市は頑張っているのじゃないかなと思います。でも、防災に完璧はないので常に上げていくことが大事だなと思っているのですが、協定はありがとうございました。災害時のボランティア活動を聖カタリナ大学さんにやっていただけるというのを非常にありがたく感じています。これは皆さんにも関係のある話なので、ちょっと視点を変えます。私の名刺は名前の下に防災士と入れています。私は防災士の資格を取っています。消防も大きく分けて消防職員と消防団員がいます。皆さんの中で、消防団員がどういうものか説明できますという人がいたらすごいなと思いますが、消防団員を説明できる人いますか。いないですよね。松山市も大学生の中で消防職員になりたいという方が多くて、志望をしてくれる方が多いんですが、消防団員というのは例えば普段は農業をやっていたりとか、自分で商店をされていたりとか、そういう方が自分の仕事を持っていて、いざというときに消防団員として活動してくれる人を消防団員と言います。全国ではサラリーマン化が進んでいるので消防団員はどんどん減少傾向ですけれど、松山市は消防団が増えてきているんですよね。これは非常勤の特別職地方公務員に当たるのでお給料を払わないといけないので、やたらめったら増やすわけにはいかず定員があるんですけれども、消防団員の数は四国で一番を誇ります。全国では減っているんですけれども増やしてきています。どうやって増やしてきているかというとですね、ちょっと工夫をしていまして、「まつやま・だん団プロジェクト」という消防団員を増やすプロジェクトをやって全国でも注目をされているんです。さっき名刺に書いていると言いました防災士は、全国の自治体でトップなんですよ。二番はこの防災士が大事だよと知っている大分市、三番が名古屋市です。名古屋は２２５万人の都市なので、松山市の４倍以上の人口ですけど、その名古屋市よりも松山市は防災士が多いんです。○○さん体重何キロですか。６０キロぐらい。私と△△さんが二人で○○さんを運ぼうと思ったら、３０キロを持たないといけないから、たぶん運べないと思います。○○さんが倒れてしまったら、男４人ぐらいで運ばないとなかなか運べないと思います。おんぶしても長い距離を運ぶのはしんどいですよね。私たち防災士は、棒２本と毛布があったら担架をつくって運ぶことができるんです。ＡＥＤももちろん使えますし、人工呼吸のやり方も知っていますし、そういう防災士の資格を持っている人がたくさんいると、松山市の防災力が上がりますよね。今は知事になられていますけれども、前市長の中村時広さんの時から税金を使わせていただいて、防災士を増やすという取り組みをやってきたので、今、松山市は一番です。保育士さんになりたいなという方もいらっしゃいますけれども、今、松山市は防災士を増やしているんですが、小さいお子さんのそばに防災士がいたら心強いですよね。小学校の先生や保育士さん、幼稚園の先生に防災士の資格を松山市は取ってもらっているんですよ。「そんな、もう忙しいのに取れないですよ。」と言われると思うけど、夏休みだったら取れることないですか。私も夏休みに一緒に取らせていただきました。また、こういう防災士を学生さんが取ってもらうと、長い間活動がしてもらえる。大学生防災サポーターは消防団員さんですけれども、大学生の消防団員も含まれています。こうやって知恵と工夫で増やしているんですけれども、南海トラフの災害が起こったときに、どう動けるかというのを常に考えながらやっていますので、また関心を持っていただたいて、こうやってしたらいいんじゃないかなというのがあったら遠慮なく言ってもらったらと思います。みんなで防災力を高めていくことが大事になります。

【女性】　人間社会学科３回生です。私はよくバスを利用させてもらうんですけど、夜遅くとか使うことが多いので、もう１本だけ夜遅くなればなと思うことがよくあるんですけども、そこは増えたりしないのかなと思ったりするんですけど、どうですか。

【都市・交通計画課長】　都市・交通計画課の石井です。まず、松山市の公共交通についてですけども、公共交通は松山では伊予鉄道さんとＪＲ四国さんになります。特にバスは伊予鉄道さんが主に運行をしていただいているという状況であります。電車・バスを含めてなかなか難しい問題でして、昭和４４年がバスの乗降客のピークで、今はその時の６分の１という状況です。よく話すのは、乗っていただけると便数も減らずにすむということですけれども、だんだん皆さん車に乗ってしまうということで、乗る人数が少なくなる。そうすると運行間隔も間引きしてくるということで、負のスパイラルと言われるんですけど、そういう状況になっているのが現状です。そこで、松山市と愛媛県では伊予鉄道さんに年間で７千万から８千万円ぐらい路線維持のためのお金を出している状況です。それでも伊予鉄道さんのバスの便数を増やすのは難しい状況にはあります。そういう中でも、例えばナイトバスという金曜日に北条、川内、森松方面に通常よりも１時間遅いバスを出すとか、そういうこともしておりますので、個別にここの路線でどうかというのは、また後で教えていただいたらと思いますが、やれることもやっているという状況です。でも、公共交通はなかなか厳しい環境にあるという状況です。私もこういう仕事をしているので、なるべく公共交通を使うようにしています。もう１つは思いがあって、将来、自分が高齢者になって車が運転できなくなったときに、この路線は残ってほしいなという思いを持って週１回とか利用しています。とにかく思い入れで将来自分が乗れなくなったときに、あってほしいという思いがあるので、若い方もそういうことをちょっと考えながら、公共交通もある一定の利用をしていただきたいと思います。もう１つは石川県にある金沢大学ですけれども、金沢大学は結構郊外にあるんです。学生の皆さんが車で通わないといけないとかあります。数年前に金沢大学と金沢の交通事業者である金沢交通が市の仲介のもと、バストリガー方式という方式でバスを運行しています。１回百円ですけれども、トリガー方式がどういう方式かというと、ある一定の人数が乗らないとバス路線は廃止しますという協定を大学と交通事業者である金沢交通さんと結んで、それで継続的に成り立っているということです。もし、そういうことを学生さんが望まれるのなら、ご相談いただいたらと思います。

【市長】　ちょうど今日、松山市役所から移動してくるときに聖カタリナさんのバスがあったんですけど、さすがに夜遅くまでは運行できないんでしょうね。状況はよくわかっていないですけど、もし聖カタリナ大学さんで確実に夜何時に利用したいんですみたいのがあったら、まとまったら伊予鉄道さんも話に乗ってくれるのかなと思うんです。学生さんがまとまって先生も巻き込んで動くと、個々で言うよりかは伊予鉄道さんと話をするときも、また松山市が仲介に入ってということも可能だと思いますので、サークルが終わってこの時間に必ず帰るので、これだけの人数が見込めて利用するのでとなったら、また動かしていく力にもなるのかなと思います。先ほど１つ言い忘れたことがあって、今日、傍聴に来られている菅議員さんは、歯医者さんをされている市議会議員さんなんですが、実はネグレクト（幼児虐待）を発見するのに、松山市は歯医者さんと連携していまして、この前に地元紙にも出たんですけれども、口の中の状態を見ると、幼児虐待をされているんじゃないかなという傾向がある程度分かるんです。松山市の歯科医師会さんが自主的に動いてくださって、幼児虐待を防ぐという動きをしてくれています。こうやって行政だけじゃなくて、みんなで一緒に動くと色んないい取り組みができますので、いい事例として紹介をさせていただきました。

【女性】　人間社会学部です。先ほど、バスのことについて意見が出たので、私も手を挙げたのですが、私の住んでいる地域はバスが２本しかないんですね。住んでいるところは松山市内ですけど、その２本の中でも行先が全部市駅の方に行くので、私の住んでいる地域はお年寄りの方がとても多くて、そのお年寄りの方がどんどんお年をめされて車が運転できないということになったら、普段の日常の買い物が困難になると思います。タクシーだとスーパーに行くのに千円かかるとばからしいと思っているので、先ほどバスの便を増やすのは難しいということを聞いたので、タクシーでもなくバスでもなく、家からスーパーに行けるような何かもうひとつの交通手段があればいいなと思うのですがいかがでしょうか。

【保健福祉政策課長】　今、おっしゃられたように、お年寄りになって免許のない方、また免許を持っていても車に乗れない方がどんどん増えているように思います。買い物難民が、どこの自治体でも問題になってきています。松山市でも山間部の方や街中にあっても、そういう状態の方がいらっしゃいますので、どういう方がどういったニーズを持っておられるかをまずは把握する必要があるのではないかと考えています。民間の商業施設、例えば、北条でいいますと、ハトマートがお買い物バスを出してマイクロバスで地域の人を集めてハトマートまで乗せて行って、お買い物をしている間は外で待って、また送ってもらうということを各地区を回りながらやっています。また、松山市の地域に行きますと、セブンスターさんが商品を積んで移動販売車を運行して、範囲はありますがお買い物に困っている地域を回っているところもあります。そういったところも踏まえながら、松山市がどのような取り組みをしていったらいいのか、今後考えていけたらと思います。

【都市・交通計画課長】　バスの導入は難しいと言いましたけれども、日浦地区をご存知ですかね。石手川ダムのずっと奥の玉川に近いところの集落ですけれども、そこで４～５年ぐらい前に地元の方がワークショップをしました。これは、伊予鉄道さんが路線をやめたいという話があって、代替えの交通手段は何があるかということで地元の方と話をすると、逆に１便増便したということがありました。こういうこともありますので、全くゼロということではないです。今、バスについては、バスも鉄道も各地区にアンケート調査を去年行いまして、それを回収して集計中ですけれども、どういう使われ方をしているか、さらにバス停の位置とかバスの運行頻度はどういうのがいいか、今後検討していくことにしています。バス以外にもエリアの足を確保する交通機関としてデマンドタクシー（乗り合いタクシー）、タクシーで乗り合ってという公共交通ですけれども、バスの利用の低いところ、バスに乗ってくれないところの交通手段としてあります。さらに、去年興居島で過疎地有償運行を開始しました。隣の家の人が「港まで出るんだったら、乗せて行ってください」というのを乗せていくと、タクシーだとオーケーなんですけれども、白ナンバーの車で近所の人がお金をもらって、近所のお年寄りを病院にでも連れて行くのは道路運送法上は違反ということになります。それを許可を取って、ある基準を満たしたら白いナンバーの車でも乗せていっていいですよという方式が過疎地有償運送という方式です。去年、興居島で始めました。色んな交通の手段、バスだけではないやり方もありますので、今後地域の人とも話をしていきますけれども、こういうほうがいいという意見もまた聞かせていただければと思いますので、よろしくお願いします。

【市長】　基本スタンスとして、松山市は公共交通を知恵と工夫で残していきたいというスタンスです。ですので、地域の声もあると思いますので、何かあったら遠慮なく都市・交通計画課に相談してもらったらと思います。実際に、興居島も高齢化してきていて、港までどうやって行こうかというところで地元の方々にもご協力いただいて、過疎地有償運送という興居島のタクシーができましたので、とにかくそういうものを残していきたい、足を確保していきたいと思っていますので、遠慮なく言ってもらったらと思います。

【男性】　さっき防災について話が出たと思うんですけれども、留学に来て韓国出身だから、地震などを経験したことがないので、初めに日本に来たときに心配するものが地震です。日本に来て地震を何回か経験したんですけど、２０年以上暮らしてきても経験したことがないので怖かったのですが、外国人がこちらに来たときには防災や地震が心配なので、地震が起きたときにどうやって自分の身を守るか、映画とかではよくあるんですけれども、やはりそれでは足りないと思います。それで、福岡に旅行に行ったときに、地震を体験する場所があって見たことがありますが、松山ではそういう場所がないらしいので、あったら留学生や外国人観光客にいいと思います。

【市長】　いいこと教えてもらいました。確かに日本は地震が多い国ですから、日本人は地震に慣れているかもしれません。留学生の方は、日本人より地震に慣れていないかもしれませんね。国際交流協会というところがあるんですけれども、ここですでにしているかもしれませんが、ちょっと調べてみます。松山の国際交流協会と一緒になって、海外を知ってもらおうというので、留学生とも協力して色んな国のことを知ってもらおうという「地球人まつり」をやっているんですが、留学生の方とのつながりもあるので、留学生の方が希望されるんだったら、起震車という地震を起こす車を体験していただくのも大事なことだなと、ご意見をいただいて思いました。起震車は震度７が体験できます。私は、ご存知の方も多いかもしれませんが、前の仕事でアナウンサーを２０年やっていて、大きな地震が起こった際にアナウンサーが慌てていると、見ている人はもっと慌てますから、アナウンサーが落ち着いて話すことが大事、必要なことを落ち着いて話すことが大事ということで、起震車を体験しているのと体験していないのでは大違いです。できるだけ、起震車を体験してもらっていたほうがいいですね。ですので、留学生の方にも体験してもらうのは大事なことだなと思いました。聞かせていただいてありがとうございました。ご家庭で防災マップは見たことありますか。

【男性】　あります。

【市長】　すばらしい。防災マップ、家にあったなという方、手を挙げてみてください。ありがとうございます。実は、地震の時にどうしたらいかという話をしますが、これは全戸配布ですから皆さんのご家庭にいっているはずです。家に帰ったら確認してみてください。松山防災マップがあります。これは、専門家の方とよくよく意見交換をしてつくっているものですけれども、では問題を出しましょう。トイレにいるときに、大きな地震に見舞われた。何をすることが一番大事でしょうか。

【男性】　ズボンをはく。

【市長】　それは大事かもしれませんね。これですね、いきなり聞かれたら困ると思うんですけれども、実はトイレの場合は比較的安全な場所だと言われています。ユニットで区切られているところは比較的安全な場所と言われていますので、ドアを開けて出口を確保したら揺れがおさまるのを待ちます。これがトイレにいるときの地震が起こったときの防御法です。お風呂に入っているときに大きな地震にあったら、何をすることが必要でしょうか。

【男性】　体を拭く。

【市長】　急に聞くとあれですね。これも、浴室はユニットで区切られていますから、比較的安全な場所と言えるかもしれません。まず、ドアを開けて脱出路を確保する。トイレとお風呂は一緒ですね。脱出路を確保する。そして、揺れがおさまるのを待ちます。ボイラーの火は消します。これが違いますね。浴槽では、風呂のふたなどをかぶり頭部を守りましょうということですね。これ全部、皆さんのご家庭にお配りしている防災マップに載っていますので、どういうものを避難の袋の中に入れておいたらいいかも書いています。各地区ごとに、どこに避難したらいいですよということも書いていますので、ぜひとも防災マップを利用していただいたらと思います。私からあと１つだけ。この防災マップは、東日本大震災が起こって新たに去年の２月に発行したものですけれども、前の防災マップに書かれていたのは、松山市民の８割が何らかの災害に遭遇すると思っているんです。でも、家で家具固定している方は２割ぐらいしかいません。この８割と２割の差ですね。私は、防災士の資格を取っていますという話をしたんですけれども、防災士の資格を取るときに勉強したのですが、引っ越しのときのことを思い出してもらうと、タンスって重いでしょう。タンスって１人で持てないですよね。タンスの中の服とか本とか全部のけても自分ひとりで持つのは大変なことですよね。そのタンスや家具を固定していなかったときに、大きな災害があったらどうなるか。震度７ぐらいの大きな地震が起こったら、そういう重い家具が倒れてくるような状態で飛んできます。当たらなかったらいいですけれども、当たり所が悪かったら、かなり大きな怪我をします。体に当たらなくてよかったじゃなくて、タンスが倒れてしまったら逃げ道がなくなるかもしれません。そう考えると、家具固定はやっておかないと危ないなというのをわかっていただけると思います。松山市民の７～８割は、何らかの災害に遭遇すると思っているんだけれども、逆に２割ぐらいの人しか家具固定をしていないというアンケート結果がありますので、皆さんもご家庭に戻ったら家具固定されていないと危ないなと思って、またホームセンターに家具固定の器具がありますから、買っていただいて固定していただいたらと思います。

【地域経済課長】　すみません。先ほど「地球人まつり」の話がありましたが、明後日１７日の日曜日にコミセンの一番西側の企画展示ホールで開かれます。２０カ国以上の方々がブースを出されているので、ぜひお立ち寄りいただければと思います。

【市長】　コミュニティセンターで今度の日曜ですね。

【男性】　社会福祉学科です。先ほど子育て環境の整備というところで、ポットの苗づくりや児童クラブの開設であったり、医療費のサービスの提供など、子どものために行っている支援は僕も松山市でよくされているというのは知っているんですけど、子どもが外で遊ぶことが少なくなったということで、先ほど市長からも家の中でゲームをしたりすることが楽しいであったりとか、塾とかで時間を割いて友達と遊ぶことが少ないとおっしゃっていたんですけど、実際、根本的に公園でボール遊びなどができないというところがまず前提にあるのではないかと考えました。それが体力の低下であったり、家の中でゲームをしたりするということにつながってくるということから、大人が多く支援する一方で子どもの遊びなどを規制している部分も多いのではないかと考えたので、小学生や中学生などの子どもの意見をもっと尊重してあげるべきじゃないかと考えるのですが、その点についてお願いします。

【市長】　実は皆さんがおっしゃったようにボール遊びができる公園を松山市は増やしたいなと思って増やしていっているところです。公園の中でボール遊びができないところがあるけど、あれはどういうことなのと思われるかもしれませんが、実はこういうことがあります。松山市は市長へのわがまちメールという市長に直接届くメールの制度をとっています。今日できるだけ発言してもらったらと思うのですが、今日、時間終わって発言したかったけどできなかったなという方は、松山市役所のホームページから入れますから、市長へのわがまちメールを利用してもらったらと思います。市長へのわがまちメールでこういうメールが来ました。公園のすぐそばに住んでいる女子中学生さんからのメールでした。どういう内容かというと「うちの家は公園のすぐそばにあります。困ったことがあって、私の家にボールが飛び込んできます。そのボールを取りに遊んでいる子どもたちが勝手に家の中に入ってきます。困るんです。」というメールがありました。これはまさに公園の側に住んでいる人のご意見で、それも大事なんですよね。確かにお家にボールが当たって、勝手に取りに来られたら誰だって気分あんまりよくないですよね。僕も小さい頃は公園とか空き地でボールで遊んでいましたから、基本そういうふうに遊ぶことが大事だと思うんですけど、ルールだと思うんですよね。おじいちゃんおばあちゃんが公園でゆっくりしているときに、子どもたちがボール蹴ってサッカーボールが飛んでいくみたいなことがあってもいかん。小さいお子さんが遊びに来ているのに、そこでバットを振っていたら危ない。そういう中でルールの中で遊ぶというのが大事だと思います。公園は実は地元の公園管理協力会という地元の方々が、トイレをきれいにしてくれるとか管理してくれています。町内会とか子ども会とかそういうところでルールづくりができたらどんどんボール遊びしてくださいよということで今増やしてきているところです。松山市内色んなところにボール遊びできる公園がありますので、ちょっとご紹介していくと、平成１８年にできたのが松山市平井町の平井公園。平成１９年度には北条の河野別府にある文化の森ですね。平成２０年には中野町といいまして久谷のほうになりますけども、中野公園。平成２１年には久万ノ台にある久万ノ台公園。平成２２年には堀江にある堀江中央公園。平成２３年度には小坂のほうにあります福音公園。平成２４年度には白水台北公園。平成２５年度には古川のはなみずき通りのほうですが古川公園。平成２６年度には愛光町にある愛光公園。平成２７年には２つ、久米窪田のほうの北窪田公園と石風呂ですから高浜にありますけども、すみれの北公園。毎年増やしています。私たちの思いはできるだけボール遊びのできる公園を増やしていきたいという思いなので、ルールを守って遊んでもらうことが大事だというところですね。

【男性】　自分が関心があるテーマで地震と関連しているテーマですけど、老朽化という問題で公園や市営住宅など建て替えとか耐震工事とかいろいろあると思いますけれども、この前も由良町の港が陥没したり、そういうインフラ的なところの耐震工事はどれだけ進んでいくような状況ですか。教えていただければありがたいです。

【都市・交通計画課長】　市営住宅については２つあります。今まで５０年くらいしか使えなかったものを長く使っていこうとする長寿命化と、耐震が足りてないものは耐震補強をやっているので、長寿命化がもうできない住宅については統合建て替えを市営住宅はしております。来年度で今ある住宅については耐震補強が終了するということになっておりますので、安心していただいたらと思います。あと、都市・交通計画課が都市整備部にあるんですけども、公園とか道路、橋とかそういうものを所管して、維持管理もしているところですけども、橋梁も数がものすごく多いので、重要橋梁から点検して補強していくというのと、５年位の期間をもって調査して順次やっていくようにしておりますので、計画的にやっていくという状況になっております。

【市長】　私から補足を。小学校・中学校はもう終わったんかな。平成２８年度中ですかね。もう大体目処がたちました。色んな公共施設がありますけれども、まず子どもたちが長い時間を過ごす小学校・中学校。こういったところは耐震化ができていないと不安になりますよね。小学校・中学校は思い切って計画を５年前倒しをして耐震化が完了するということになります。公民館は人がたくさん集うところですけれども、公民館も耐震化できていないと困るので、これも計画を立てて公民館やっております。例えば消防団のポンプ蔵置所は消防団の車があるところですけれども、ここの耐震ができていなくて、出動したかったんですが出動できませんでしたというと困りますよね。こういう消防団のポンプ蔵置所、消防自動車が入っているところも各地区にあると思いますけれども、今耐震化をしています。こういうふうに計画を立てながらやっていますので、市営住宅についてもそういうかたちになりますね。私は市長に就任させていただいて６年目ですけれども、誰に投票してくださいという話ではなくて、皆さん選挙に行ってくださいよという話ですけれども、皆さんニュースなどでも聞かれると思いますが、国自体が１千兆円を超える借金を抱えている。仕送りと似たところがありまして、国から地方へは地方交付税交付金とか国庫支出金というかたちで地方にお金が配付されています。仕送りと似たところがあって、親元が苦しいのに仕送りが増えるとはとても考えにくいですよね。そういう中で、どこの地方自治体も限られた財布の中でやっていかなくてはいけないですね。箱物をつくったら維持管理というのが必ず必要になるのですよ。大学生世代ですから１８～２２歳くらいだと思いますけれども、皆さんがこれから考えていくこと、我々も皆さんの世代にきちっと渡していきたいと思いますけれども、やっぱり箱物をつくったら維持管理というのが大事になるので、松山市として何をつくってどう持ちこたえていくかはよくよく考えてつくっていくことが大事だなと思っています。やっぱり選挙というものの中で、皆さんの考えをしっかりと反映していってほしいなと思います。

【女性】　人間社会学科です。私の弟が自閉症を持っているんですが、小学生になるので年長のときに堀江小学校に行って学校で面接をするんですね。特別支援の学級があって「つつじ」というんですけど、その学級に入れるか、それとも普通の学級でいけるかどうかを面接するんですけど、その場の先生たちがものすごく偏見のある方々で、私も親族として一緒に面接に行ったんですけど、お医者さんの判断としてはそこまで重度ではないと、軽度の自閉症だから大丈夫でしょうという判断だったんですけど、この診断書は本当に大丈夫ですかという意見が出たりということがありました。あと、児童クラブについても先ほどお話がありましたが、児童クラブの先生もすごく偏見を持たれている方が多い。障がいを持っている方は入れませんという人もいました。そういう方たち、先生たちに対して教育というか指導ができないのかなと思いました。

【市長】　これは１回持ち帰らせてください。教育委員会の話になりますので、いい加減な返事をして帰るわけにはいかないので、１回持ち帰らせていただいて回答させていただいたらと思います。

【司会】　それでは最後に市長から本日の感想をお願いします。

【市長】　皆さんからたくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございました。この世代別のタウンミーティングをやっていてよかったなあと思うのは、色んな世代の人が集まって社会が形成されているので、若者世代の皆さんの意見が抜けちゃうようではいけないので、皆さんのいろいろな意見を聞かせていただいて、また新たな気づきがありましたので、市政に反映したいと思います。意見対応表というのをつくっていまして、こういう意見が出ました、このようにさせていただきますという意見対応表を必ずお返しをさせていただきますので、また見ていただいたらと思います。キャッチボールであって、皆さんから意見をいただいて我々はこうしようと思います。常に意見交換をしていくことが大事だと思いますので、市長へのわがまちメールもありますし、これからも皆さんの意見を聞かせていただいたらと思います。また今後とも、松山市に意見を寄せていただいたらと思います。本当にありがとうございました。